

特定非営利活動法人 CAN 2022 年度事業報告

1, 基本方針と事業の総括

2022 年度、特定非営利活動法人 CAN は、従来からの社会的養護アフターケアに加え、自立援助ホーム運営の経験を活かし、札幌市の困難を抱えた若年女性等支援事業にも引き続き取り組んだ。具体的には、以下の柱で事業を行った。

(1) 【居場所提供事業】【シェルター事業】【相談事業】【同行支援事業】【自立生活支援事業】

ピッケノハコを拠点とした、①気軽に立ち寄り自由に過ごせる居場所の提供、②緊急的な一時避難所（シェルター）の提供、③個別の相談への対応、④個人を支える伴走型支援の実施、⑤交流活動。ピッケノハコは、正月三日を除き毎日開室した（新型コロナウイルス感染疑いにより臨時閉室が1日あった）。この事業を通じて、年齢、性別ともに利用者の幅が広がった。安定的な居場所運営によって、医療や障害福祉サービス等、専門分野を超えた支援への橋渡しができた。なお、複数スタッフによる居場所運営の維持が可能となったのは「休眠預金活用新型コロナウイルス対応緊急支援助成」の受託による。

(2) 【啓発事業】【アウトリーチ活動】

上記事業を広く周知するため、①様々なメディアを活用した情報発信、②街歩き、③ピッケノハコ以外の場所での相談活動や同行支援を行った。LINE 登録者は、前年度末の 42 名から 87 名に増加した。また、ホームページは、相談先を探す方にとっても活用されていることが確認できた。

(3) 【ネットワーク強化】

関連する活動を行う他の民間団体や行政機関と情報交換や連絡を密にして連携を強化した。今年度も、若年女性支援ネットワーク「Cloudy」とともに食料品・日用品配布事業や共同研修を行った。

(4) 【スタッフ養成事業】【組織的・財政的基盤強化】

安定的な事業実施に向けて、①スタッフ研修、②組織的・財政的基盤の強化に取り組んだ。定期的にスーパーバイズを受けるとともに、支援の向上、NPO 運営にかかわる外部研修に積極的に参加した。また、当法人の経験を踏まえ、ケアリーバー拠点の必要性について、札幌市に提案した。

2, 事業の実施

利用者の方に寄り添い、支えることが、人それぞれの多様なあり方として想定される「自立」につながるの理念を持ち、以下の事業を行った。

(1) 10 代から 20 代の子どもや若者に対する自立支援事業

事業実績一覧

	電話	メール	LINE	来訪	訪問	同行	出張相談	イベント	フードバンク	年賀状送付	関係機関調整
2022年度	483 (149)	172 (66)	1643 (98)	1026 (135)	37 (10)	91 (19)	25 (18)	12	27	18	154
2021年度	556 (149)	307 (80)	1054 (57)	687 (67)	33 (9)	92 (13)		11	18	17	114
2020年度	121 (14)	216 (14)	244 (13)	150 (17)	7 (2)	21 (7)		14	—	17	42

(注1)「同行」は、病院・支援機関・行政機関への同行。

(注2)表中の数字はすべて延べ数。()のみ実数。

①居場所提供事業

ピッケノハコでは、多くの人が構えずに利用に踏みきれるよう、特に厳密な利用要件を設けていない。ま

利用者	関係機関	LINK	SNS	リーフレット	メディア	イベント	不明	その他
2	10	5	11	1	0	3	7	11

た、相談の「窓口」という形もとっていないが、日常的な利用を通じて少しずつ関係性を構築し、必要が生じた時に他の支援機関や行政機関への橋渡しを行ってきた。そのため、必要な時に速やかに繋がれるよう、関係諸機関とも緩やかな連携関係を維持した。支援機関への相談にはハードルの高さを感じている人が支援機関に繋がるためのスプリングボードとして、またすでに医療など支援機関につながっている方が、継続して支援を受けるための支えとしての役目も果たすことができた。

居場所の運営は具体的に以下のように行った。

【「ピッケノハコ」の設置と運営（居場所、相談、交流）】

- 無料で利用できる通所の居場所として一年を通じてピッケノハコ（以下、ハコ）を開室し運営した。
- 開室時間帯は、平日は 11 時～17 時（前年度同様）としたが、土日・祝日は 14 時～20 時までとした（スタッフ体制維持のため前年度より開室時間を遅くした）。
- 2022 年度開始時の職員体制は、常勤スタッフ 2 名、非常勤スタッフ 5 名であった。年度途中でスタッフ 1 名が出産休暇に入ったため、常勤 2 名、非常勤 3 名の体制となった。ハコ開室時間帯には、原則として、スタッフ（常勤・非常勤）2 名が常駐する状態を維持した。
- ハコの利用対象は、社会的養護出身者、社会生活に困難があり各々の事情で家族からの支援を受けられない方、居場所を必要としている方などとし、実際には、おおむね、10 代から 30 代の方々の利用があった。男性利用者の比率が微増した。利用者の居住エリアは、徒歩圏内だけでなく広く札幌市内や近郊自治体にも広がりを見せている。また、他県・他市からのケアリーバーの問い合わせもあった。
- 初めてハコを利用する際には、緊急連絡先等を登録してもらい『ピッケノハコによるこそ』に記入してもらい、併せて個人情報の保護についての説明を行い、同意を得ることとした。
- ハコの利用について予約制はとっていない。「一人で利用したい」「スタッフのみと話したい」といった希望については、原則前日までに連絡を受けて対応した。
- 利用者が多い週末やイベントには澤田邸の部屋をお借りした。
- コロナ感染症拡大防止対策としては、空気清浄機を導入するとともに、その都度状況を見て、スタッフを含めた最大定員を設けた。
- ハコに備品としてテレビ、タブレット、書籍、ボードゲーム、カードゲームなどを用意し、自由に閲覧・利用してもらった。
- ハコでは、飲み物、お菓子などを常備するほか、要望に応じて軽食を提供した。また、フードバンクや支援者から提供された食料品、衛生用品、日用品を配布したほか、経済的に来所が難しい方には、都合のいい場所までお届けした。食料品については、隔週で NPO 法人ハンズハーベストより提供を受けた。
- 月 1～2 回、週末に澤田邸での「出張ピッケノハコ」を実施した。それにあわせてクリスマスなどのイベントを開催した。
- 夏には、花火大会、秋には紅葉、冬にはホワイトイルミネーションや雪まつりなど、季節に応じた催しに出かけた。また、ハコでお弁当を用意して、芸術の森の無料イベントに参加した。

利用者の方々が、ピッケノハコを知ったきっかけ

利用者	関係機関	LINK	SNS	リーフレット	メディア	イベント	不明	その他
2	10	5	11	1	0	3	7	11

②シェルター事業

シェルター利用実績

Link 事業	ハコメン・OG
4	2

CANのシェルター「ヒミツノハコ」を、「困難を抱える若年女性」及び、家庭での居場所を一時的に失っている方の緊急的な一時避難場所として提供した。

【「ヒミツノハコ」の設置と運営】

- 同居相手との関係解消を希望する方の利用が1件、夜間ひとりであることに不安な方の利用が1件あった。
- 未成年者の利用はなかった。
- LiNK事業での利用が4件あった。うち1件は、日曜日夕方の依頼のため、協会スタッフは面談に同席できなかった。うち3件は、その後ピッケノハコを利用している。

③相談事業

相談は、ハコ来訪時の対面相談、電話やSNS等による相談を主として行い、体調・経済的な事情でハコ来訪が難しいが対面での相談を希望される方には、こちらから出向いて相談を受けた。また、自宅へ伺って、家事のお手伝いをしながら、お話しを伺うこともあった。

病院・行政機関同行時、食料配布時に話すなかで、相談に移行する場合もあった。

専門的な支援を要すると考えられる場合には、インターネットなどで一緒に相談先を検索したり、以前からの連携団体の情報を提供したりするなど、橋渡しを行った。

なお、実際には、すでにそうした相談先を知っていても、足を運ぶに至っていなかった方、行ってみたがうまく相談できなかったという場合もある。ハコを利用することで、そうした相談先について一緒に考える過程を経て、相談に向けてのきっかけづくりを支援することも相談事業の一環ととらえている。

④同行支援事業

定期的な通院の同行のほか、ハコメンさんが専門的な支援への橋渡しを希望される場合には、本人の要望があれば、支援先への連絡や同行を行った。ハコを面談場所として使用することもあった。

⑤自立生活支援事業（学習支援、医療機関受診支援、就労支援）

不動産業者の紹介、同行、ハローワークやサポステへの同行、福祉施策の紹介や同行を行った。

同行の折には、賃貸住宅を借りる際の注意点などについて不動産業者と情報交換ややりとりを十分に行うことを意識した。

⑥アウトリーチ活動

- Twitter、Instagram、ホームページを通じてピッケノハコの存在を周知した。
- すでにつながっている方々とのやり取り、相談のツールとしてLINEを活用した。また、ハロウィンやクリスマスなどの季節行事をLINEで一斉配信した。一斉配信をすることにより、しばらく音信のなかったハコメンさんとやり取りが復活し、近況を知れることもあった。
- シーズ南平岸のOGには、誕生日カードと年賀状を送って、関係継続に努めた。

(2) ネットワーク強化

若年女性支援や社会的養護自立支援に必要な関係者会議、研修に積極的に参画した。

札幌若年女性支援ネットワーク「Cloudy」の活動として、食料品・日用品配布、共同研修を行った。

学習支援団体と連携して行ってきたインケアからの関係性構築の活動（からんこえ）は、いったん見直しを行うため中断しているが、からんこえからハコ利用につながったケースがあった。

保健センターや家庭児童相談室、社会的養護自立支援コーディネーターや地域の相談先等からケースの照会や相談を受けた。

若者（支援）の難しさを言語化する検証委員会委員の委嘱を受け、会議・中間報告会に参加した。

社会的養護自立支援コーディネーターの要請を受け、NPO法人ブリッジフォースマイルがケアリーバー向けに行う研修会「巣立ちプロジェクト」で、社会に出たあとの支援先のひとつとして活動報告をした。

札幌レインボープライド事業のイベント、チカホ de プライドにブース出店し、ハコの利用につながった。

実施状況

クラウドイ・キッ チン	クラウドイ・キャン パス	からんこえ	関係者会議	関係機関による ハコ見学	関係機関見学
10	2	2	4	15	3

(3) 組織的・財政的基盤強化

①スタッフ養成事業

支援やアフターケアに必要な社会的・専門的知識を獲得する機会を設けるため、月に一度、スタッフミーティングにスーパーバイザーを招き、事例対応について助言を受けた。法人としての独自の研修を行うには至らなかったが、外部団体による研修には積極的に参加した。

スタッフが受講した主な研修

- 5月 エンパワメントとレジリエンスの技法（北海道CAPをすすめる会）
- 6月 依存症予防教育セミナー「アディクションと回復」
犯罪被害者支援研修1回目（TICC）
社会的養護等若者の伴走支援（ユニバーサル志縁センター）
- 10月 若年女性支援に携わる弁護士の講演会
社会的養護経験者のお話
- 11月 若者応援シンポ（首都圏若者おうえんネットワーク）
犯罪被害者支援研修2回目
札幌市の新しいフォスタリング制度を学ぶ（つきさっぷプロジェクト）
困難女性新法に関する勉強会（北海道立女性プラザ）
若年女性支援研修（Colabo）
発達障害グレーゾーンの理解とその支援（若者サポートステーション）
- 12月 スマイルリング代表堀田さんの講演会
ファンドレイジング勉強会（ユニバーサル志縁センター）
ジェンダー・センシティブな支援を考える（クラウドイ・キャンパス）
若年女性支援研修（Colabo）
- 2月 事務力強化セミナー（札幌市NPO法人向けセミナー）
居場所づくりと支援者である私のあり方を考える（クラウドイ・キャンパス）
支援者のセルフケア（LiNK）
尼崎市の公営住宅活用の仕組みに学ぶ（ユニバーサル志縁センター）
- 3月 アウトリーチで支援をつなぐ（子どもの虹情報研修センター）
アフターケア事業所全国ネットワークえんじゅ研修

② 若年女性支援のスキルの言語化・可視化

クラウドファンディングによる発信や、札幌市へのプレゼンテーションなどが、特に若年女性に見られる相談への繋がりにくさの背景を言語化する機会となった。

③啓発事業

【広報】

- 7月と2月にニューズレターを発行し、会員・寄付を下された方々・各関係機関その他支援者に配布した(約300部)。
- 2021年7月に行ったLiNK事業キックオフシンポジウム報告集を300部製作し、関係機関、支援者等に配布した。
- CANの支援活動についての言語化と発信を目的とするブックレット作成に向け、今年度も協議を重ねた。
- HP、Instagram、Twitterでピッケノハコの活動の様子や寄贈していただいたことを逐次発信した。

【アドヴォカシー】

- 招きに応じ、講座、シンポジウムに積極的に登壇し、若者支援、若年女性支援の現状を伝えた。(報告等を行った主な講座、シンポジウム以下の通り)
 - ・勉強会「若者伴走支援の現場」【話題提供】
 - ・ボランティア研修「地域の高齢者、障がい者、子ども・若者について学ぶ講座」【講師】
 - 「子ども・若者の現状と課題」編(札幌市社会福祉協議会)【講師】
 - ・全国自立援助ホーム協議会「女性スタッフ研修」【講師】
 - ・居住支援シンポジウム「困窮する女性の居住支援について考える」【シンポジスト】
 - ・若者の難しさを言語化する検証会議中間報告シンポジウム【シンポジスト】
- さっぽろ青少年女性活動協会、北海道大学大学院教育研究院附属子ども発達臨床研究センターと共催で、LiNK事業1周年シンポジウムを行った。
- 毎日新聞、北海道新聞で活動が紹介された。
- 「若者の難しさを言語化する検証会議」に委員として参加した。
- 若者支援の現状について、他支援機関のインタビュー調査に協力した。

【その他】

2022年3月から1か月間クラウドファンディングに取り組み、108名の方から総額955,000円の寄付をいただいた。クラウドファンディングを準備するにあたって、CANの取り組みや居場所として何を大切にしているかを言語化することができた。

3, 事務局体制

事務局長のほか、常勤、非常勤スタッフ各1名が事務局業務を兼任した。必要に応じ、他のスタッフ・理事が補佐をした。事務局はニューズレターの印刷・発行、スタッフの労務管理、スケジュール管理、会計業務、助成金管理、会員管理、取材対応などを行い、事業運営の円滑化に努めた。

4, コンプライアンス体制

理事会は、コンプライアンス委員を委嘱し、内部通報体制を整えた。

5, LiNK 事業

札幌市からさっぽろ青少年女性活動協会に委託された「困難を抱える若年女性支援事業」のうち居場所提供と自立支援の一部の事業を担った。CAN では、年末年始と毎週木曜日を除く毎日、16:00～18:00 ホットライン対応、シェルター利用希望者との面談、シェルター提供、シェルター利用後の自立支援として関係機関同行や住居確保の支援を行った。

また、困難を抱えている若年女性支援事業 (LiNK) のアウトリーチ活動としての、すすきの周辺の夜回りと SNS パトロールにも参加した。

居場所提供

ヒミツノハコ宿泊期間

1泊	2泊
3名	1名

(注)この他に、ヒミツノハコを経ず、他団体シェルター、協力団体のシェルター利用が4名あった。

シェルター利用者への自立支援

民間シェルター紹介	中間シェルター訪問	自立支援会議	一般賃貸住宅入居調整	支援機関紹介	就労・修学調整	生活保護申請援助
4	20	3	2	1	2	1

自立後の居住場所

一般賃貸住宅	住み込み就労
3件	1件

今年度は、現在の環境から一時的に離れたいという方のシェルター利用が目立ち、シェルター利用後は自宅等、その時点での居住場所に戻るケースが半数を占めた。

アウトリーチ

実施回数

SNSパトロール	すすきの夜歩き
47	12

●すすきの夜回り：月に一度のペースですすきのを中心とし、中島公園エリアから札幌駅周辺エリアにかけて夜回りを行った。主に、LiNK という相談ツールがあることを周知することに主眼をおいて声かけを行い、「LiNK カード」とともにプチコスメなど、ささやかなプレゼントを渡し、可能であればその場で何か困りごとはないか、相談できる相手がいるかなど対話を心掛けた。

男性を含む複数の未成年者グループなど、現在の夜回りの体制ではその場で対応しきれないケースにぶつかることが増えた。

●SNS パトロール：毎週木曜日 18時から 20時まで、Twitter 上で主として「パパ活」と思われる発信をしているアカウントにダイレクトメッセージを送り相談先を知らせた。毎回 30～40 件の発信に対し、何らかの返信があるのは1～2件程度である。ダイレクトメッセージ送信後、半年たってから相談が入ったケースもあった。

LiNK 事業への理解を広めるための情報発信

●LiNK 事業への理解を広めるために、下記の活動を行った。

- ・STV ラジオ 出演、事業紹介
- ・障がい福祉サービス事業所連絡会議にて事業の説明

- ・ 婦人相談員研修にて事業の説明
- ・ 北見市の若者支援団体「ワークフェア」との情報交換
- ・ 沖縄、道内の研究者との情報交換

以上